第１章　現　状　と　課　題

市の現況と課題を示します。

◆現況特性

◆主な都市づくりの課題

【第１章　現状と課題】の構成

1.現況特性	⑴歴史的特性
	⑵自然的特性
	⑶社会的特性
	⑷都市整備の状況
	⑸観光資源
2.主な都市づくりの課題	・都市づくりの基本的な考え方 ・都市構造 ・土地利用 ・交通体系 ・安全・安心（基盤整備） ・公園・緑地 ・景観形成 ・交流 ・計画推進

第１章　現状と課題

１．現況特性

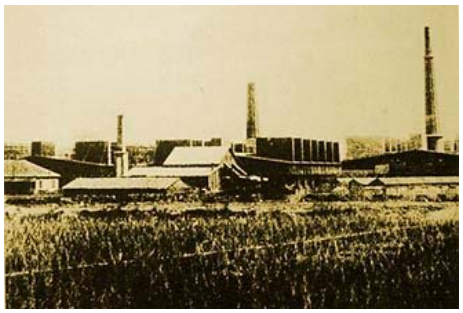
（1）歴史的特性

江戸時代には中山道が通り、宿場町として栄えていました。

また、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一の生誕地であり、渋沢栄一により深谷で日本初の機械方式によるレンガ工場が造られました。

平成 18 年 1 月 1 日には 1 市 3 町（深谷市、岡部町、川本町、花園町）の合併により新深谷市が誕生しました。

平成 22 年 3 月 1 日に群馬県太田市南前小屋地区を編入し、深谷市高島の一部を群馬県太田市へ編入しました。



日本煉瓦製造株式会社（明治 22 年頃）

（2）自然的特性

埼玉県北西部に位置し、東京都心から 70km 圏にあります。北は利根川を挟んで群馬県に接しています。

利根川、荒川の二大河川のほか、小山川、福川、唐沢川、志戸川、吉野川などの中小河川が流れ、冬の「赤城おろし」対策の防風林が櫛挽地区において、良好な状態で保全されています。

概ね平坦な地形であり、市の総面積は 138.41km^2、うち田畑が約半分を占めています。

市全景（北側上空から望む）

（3）社会的特性

明治 16 年に高崎線の深谷駅が開業し、明治 34 年には秩父線が開通しました。現在、ＪＲ高崎線 2 駅、秩父線 4 駅を有しています。

関越自動車道、一般国道 17 号、深谷バイパス、上武国道、一般国道 140 号・同バイパス、一般国道 254 号などの広域間の基幹的役割を果たす道路があり、関越自動車道花園インターチェンジを有しています。

平成 17 年から平成 22 年の 5 年間で人口が 1,843 人減少しています。（国勢調査）

第 1 次・第 2 次産業人口ともに減少傾向にありますが、県平均より構成比は高いことが特徴です。（平成 17 年国勢調査）

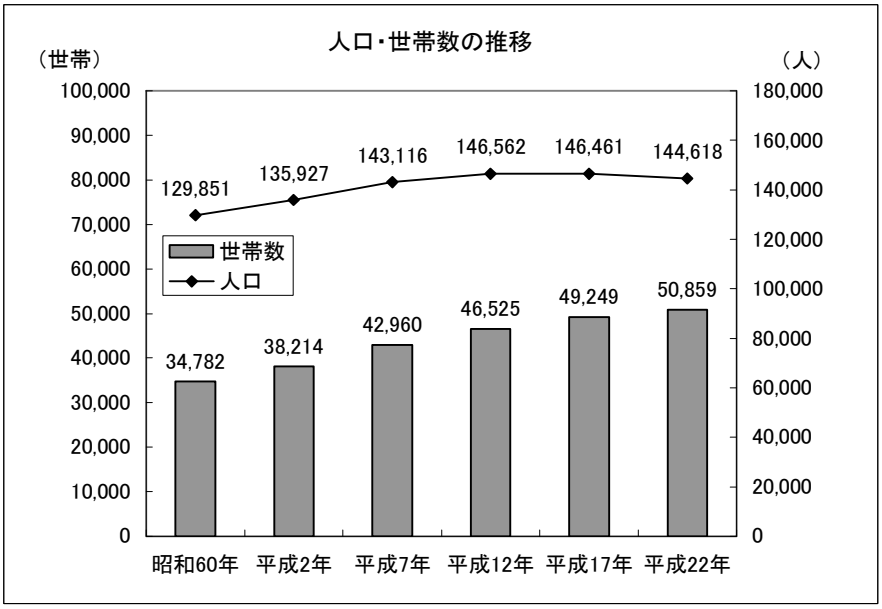
野菜、花き、畜産、植木など多様な農産物を生産し、県内第 1 位の農業産出額を誇ります。（平成 18 年埼玉農林水産統計年報）

農業従事者数の割合は県平均より高くなっています。（平成 17 年国勢調査）

製造業の集積も大きく、製造品出荷額などにおいて県内第 3 位になっています。（平成 21 年工業統計調査）

自市内通勤率は、県平均より高くなっています。（平成 17 年国勢調査）

卸売・小売業従業者数の割合は、県平均より低くなっています。（平成 21 年経済センサス基礎調査）



資料：国勢調査

		市	県平均
産業別就業人口構成比	第1次産業	10.2%	2.2%
	第2次産業	33.3%	27.6%
	第3次産業	56.5%	70.2%
農業従業者数の割合		10.0%	5.0%
自市内通勤率		56.5%	41.5%
卸売・小売業従業者数の割合		20.6%	21.9%

資料：平成 17 年国勢調査、平成 21 年経済センサス基礎調査

（4）都市整備の状況

市域の約 9 割が都市計画区域*であり、深谷地区、岡部地区、川本地区の深谷都市計画区域（線引き*）と、花園地区の寄居都市計画区域（非線引き*）の 2 つの都市計画区域に分かれています。深谷地区の八基・豊里地域は、都市計画区域外になります。

鉄道駅を中心に、用途地域*が指定されていますが、規模の大きい市街地は深谷駅周辺に限られます。（人口集中地区(DID)*も深谷駅周辺のみに設定）

市街地開発事業などは 64 地区、1,006.1ha で実施されており、うち 5 地区（114.7ha）については施行中です。市街化区域面積 1,725ha のうち約 52％で市街地整備が実施済みです。（平成 17 年都市計画基礎調査）

市民 1 人あたりの公園面積は 10.04 ㎡／人となっており、土地区画整理事業*で整備された都市公園が多く、深谷地区中心部に集中しています。（平成 21 年度末現在、都市計画課資料）

都市計画道路*は 42 路線、延長 102.76km を決定し、整備改良率は 55.6％となっています。（平成 21 年度末現在、都市計画課資料）

公共下水道の行政人口に対する普及率は 52.6％であり、特に岡部地区での普及率が低くなっています。（平成 22 年度末現在、下水道課資料）

（5）観光資源

【観光施設など】

荒川の白鳥、コスモス街道、鐘撞堂山（霧ヶ谷津池）、仙元山公園、渋沢栄一関連施設（渋沢栄一記念館、旧渋沢邸「中の家（なかんち）」、清風亭、誠之堂、日本煉瓦資料館、ホフマン輪窯 6 号窯、備前渠鉄橋）、深谷グリーンパーク・パティオ、埼玉県農林公園などがあります。

【イベントなど】

深谷桜まつり、花フェスタ、重忠まつり、深谷七夕まつり、ふれあいカーニバル、深谷花火大会、深谷まつり、花園ふるさと納涼夏祭り、小前田屋台まつり、おかべコスモス祭、深谷市産業祭、妙見市、酉の市などがあります。

旧渋沢邸「中の家」

深谷まつり

２．主な都市づくりの課題

都市づくりの基本的な考え方	・人口減少、超高齢化などの社会の潮流及び持続可能な社会*形成などの国の都市政策の方向性を受け、エコ・コンパクト*な集約型都市構造の都市の実現を目指すことが重要です。 ・ストック形成*を重視し、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、市民の主体的参画によるエリアマネジメント*活動などを促進することが必要です。 ・近年、出生数の減少、転出数の増加傾向が強まっており、子どもを生み育てやすく、かつ、本市に住み続けたくなる都市づくり*を目指すことが重要です。 ・旧市町で策定された都市計画マスタープランの共通する方向性として、「安心・安全」「自然・田園環境との共生」「協働」があり、これらの都市づくりの方向性は継承していきます。
都市構造	・市全体の中核拠点としての深谷駅周辺、その他の地域拠点として上柴地区や岡部駅周辺、武川駅周辺、小前田駅周辺の各々の役割を明確にし、その役割に応じた都市機能を集積するとともに、田園地域については保全を図るなど、都市と田園のメリハリのある土地利用を形成することが重要です。 ・各拠点、都市と田園など、それぞれの地域が有する役割や資源の交流・連携を図り、他の都市も含めた広域的、効果的なまちづくり*を進めるため、花園インターチェンジ周辺について、交流・連携拠点としての機能を集積することが必要です。
土地利用	・市域全体の都市機能を適正に配置することが重要です。 ・駅周辺においては、駐車場の整備や活性化に向けた施策の充実が必要です。 ・駅周辺の活性化のためには、まちなかに人口を増やすことも重要であり、住宅整備の促進が必要です。 ・市全体の住宅整備の方向性としては、新市街地を開発するより既成市街地の再生や居住環境の向上を支持する意見が多く、既成市街地の居住環境の改善が必要です。 ・深谷バイパスや一般国道 140 号バイパスなどの広域幹線道路沿道については、周辺環境への調和に配慮した土地需要への対応など、適切な土地利用の誘導が必要です。
交通体系	・市域全体の将来交通需要に適合させるとともに、周辺都市との交通連携に配慮した交通ネットワークを構築することが重要です。 ・道路、交通面については、歩行者及び自転車の安全性・利便性の向上を求める意見が多く、それらを検討することが必要です。
安全・安心（基盤整備）	・道路、公園、下水道などの都市基盤の整備については、重点化・効率化を図りつつ、着実に推進することが必要です。
公園・緑地	・市域全体の公園・緑地の配置、ネットワークを構築することが必要です。 ・自然環境の保全を望む市民の意見が多く、自然環境の保全に努めることが必要です。

景観形成	・農地が広がる田園環境は、景観的に重要な資源であり、維持・強化することが重要です。 ・特徴的な環境資源（利根川・荒川・鐘撞堂山・櫛挽の防風林など）を核とした地域の魅力づくりを推進することが必要です。 ・好きな景観としてあげられた資源（仙元山公園や深谷駅舎及び駅周辺）については、それらの保全及びさらなる魅力づけが必要です。
交流	・人口減少のすう勢の中で、地域の活性化を図るためには、魅力あるまちづくりを市民とともに推進し、交流人口の拡大を図ることが重要です。
計画推進	・市民との協働によるまちづくりについては、一定の成果が見られており、今後とも継続して推進することが必要です。 ・計画の着実な進展を目指し、実現可能な推進方策（市民・事業者・行政との役割分担や進行管理など）を検討することが必要です。